

現在、この建造物は「アーティスト・レジダンシー」として、空の見える部分を取り囲んだ厳格な建築が、修道院時代同様、孤独な時間と共有の時間を豊かに過ごすべく使用されています。



photo: Alex Nollet-La Chartreuse

## ■ 十四世紀に建設された修道院の現在

1973年から歴史建造物国庫と仏文化省、地方自治体の支援を得て、この建造物はアーティスト・レジダンシーの役割を果た

しています：修復によって、国の文化事業の一役を担う事が可能となりました。

現在、舞台文書ナショナルセンターは、3つの方針に基づいて活動しています：作家や演劇集団のレジダンシーとして、芸術・教育・科学などのアーティストの協力による舞台や作品についての変化についての研究や実験の場として、毎年7月に開催されるフェスティバル・ダヴィニョンのスペクタクル上演の場として、というものです。



見学のしおり



### ■ 開館時間

10月～3月 9.30 - 17.00  
(土・日曜日10.00 - 17.00)  
4月～6月 9.30 - 18.30  
7月・9月 9.00 - 18.30  
8月 9.00 - 19.00

最終入場時間は、閉館30分前。  
館員による解説を希望する場合は、要予約 (+1€)。  
閉館日は、1月1日、5月1日、11月1日、11月11日、12月25日。



LA CHARTREUSE

58 rue de la république  
30400 Villeneuve lez Avignon  
+ 33 (0)4 90 15 24 24  
accueil@chartreuse.org

www.chartreuse.org



conception graphique Annie Demangeot  
première de couverture © Alain Gas

このパンフレットは、IMPRIM VERT (エコ印刷) とフランスで認められた印刷会社が、植物性インクと60%リサイクル用紙を使用して実現したものです。在アヴィニョン、ラフォン印刷所。



LA CHARTREUSE

Villeneuve lez Avignon Centre national des écritures du spectacle

## ■ ラ・シャルトルーズの歴史

**祝福の谷のシャルトルーズ** (La Chartreuse du Val de Bénédiction) は、教皇イノケンティウス六世の意向により建立された、シャルトルーズ会修道院でした。

1352年の教皇選挙によって選ばれたイノケンテウス六世は、選出された後、かつて枢機卿として過ごしたヴィルヌーヴ・レザヴィニョンの贅沢な枢機卿邸宅と土地をシャルトルーズ会に寄進しました。最初の基礎となる工事は早々に始められたもので、修道士12人の生活を想定して建設され、様々な恩恵に浴しています。例えば、礼拝堂のひとつはマテオ・ジョバネッティによる装飾が施されていますが、この画家は先にアヴィニョンにある十四世紀教皇庁宮殿のフレスコ画を制作しています。イノケンティウス六世はここに強い愛着を持ち、1362年に亡くなると、生前からの希望でここに埋葬されます。その霊廟は、フランス革命の際には場所を移されましたが、1959年に再び修道院内教会に戻されました。イノケンテウス六世の意志は、パンプリュヌの枢機卿である甥ピエールセルヴァ・ドモンテラックに引き継がれ、1372年に聖ヨハネ回廊の建設により完成します。

数世紀という時間を経る間に、修道院は更に素晴らしいものになりますが、17世紀前半に建築家フランソワ・デロワイエ・ドラヴァルフニエールが装飾に携わった事は、その美しさに大きな影響を与えています。建造物全体では、3つの回廊を持つフランスで最大規模のシャルトルーズ会修道院となります。

フランス革命で、修道院はばらばらに売られ、図書室やその価値ある蔵書も散逸するという、重大な被害を被りました。

1835年、教会とフレスコ画の著しい破損が、当時歴史建造物検査官であった作家プロスペール・メリメの注目を引くところとなりました。メリメは間もなく、保護処置を始めました。1909年、国は建築家ジュール・フォルミジェに委任し修道院の修復に取りかかりますが、第一段階修復事業は、元修道院だった建物を徐々に買い上げていくというものでした。

今日、ラ・シャルトルーズは、大部分が改修を済ませ、調和の取れた建物のバランス、回廊部分や崩れかけた教会後陣からもれる光の穏やかさや美しさなどが、人々を引きつけています。

